

している。  
また、他の医療機関との連携を重視し、地域医療ネットワーク全体で救急医療を支える体制づくりに貢献することも岡山ERの特徴だ。

### 子宮頸がん検診 対象者を拡大

**問** 子宮頸がん検診について本市の取り組みは。

**答** 平成20年度から検診の受診可能対象年齢を従来の三十歳以上から二十歳代の偶数年齢にも拡大し、早期発見に努めている。今後もがん検診の必要性・重要性について広報し、受診率向上に努めたい。

### 認知症高齢者への 社会的支援

**問** 認知症高齢者への社会的支援がますます重要となるが、現状と今後の取り組みは。

**答** これまで、国が認知症の人や家族が安心して暮らし続ける地域づくりを目的に推進している、認知症サポーター養成講座を地域包括支援センターで開催し、九百二十一人（平成20年12月4日現在）のサポーターを養成した。今後も、この取り組みを続

けていくなど普及啓発に努め、地域組織と連携して高齢者を地域全体で支える体制づくりを推進していきたい。



熱心に耳を傾ける認知症サポーター

## 政 隆 会

### 政令市移行後の 市民相談窓口

#### 市民相談窓口

**問** 政令市移行後の市民相談窓口はどうなるのか。

**答** 市民からの相談・要望に対しては各区役所の総務地域振興課（仮称）に窓口を設置し、安全・安心ネットワーク推進室は全市的な要望・陳情

や広聴業務などのほか、各区役所窓口での相談・要望の統括と担当部局との連絡調整等を行う。

### 身近な生きものの里事業 成果と今後の展望

また地域センター（仮称）は土木・農林業務に関する相談の受け付けや区役所への取り次ぎを行う。

#### 成果と今後の展望

**問** 「身近な生きものの里事業」の成果と今後の展望は。

**答** この事業は、平成4年から開始した「ホタルの里事業」を発展させ、地域の身近な生きものの中からシンボルとなる生きものを選定し、その生息地域の保全に取り組む団体を認定・支援することにより、市民協働で地域全体の自然環境保全を図るものだ。

「ホタルの里」地域の八団体に加え、淡水魚やホタルの保護・調査活動に取り組む一団体を認定しており、今後も順次認定していく方針だ。

### 政令市移行後の 消防団の体制

#### 消防団の体制

**問** 政令市移行後の消防団の体制と若い人材の確保策は。

**答** 管轄区域は区制に合わせ

修正する。組織は現在一団四地区、十七方面隊百分団、四千八百人だが、消防署が四署から五署体制になるため、方面隊の編成も四地区から五地区になる。

人材確保については、消防団出初式と成人式の同日開催や、市民を対象とした防災訓練等においてPRを行い、若手団員の確保に努めている。

### 岡山駅西口周辺の再整備

**問** 岡山駅西口周辺の再整備はどのように行われ、いつ完成するのか。

**答** 交通結節点機能の向上を図るため、西口広場にバス・タクシー・一般車の乗降場を増設し、高速バスの乗降場を新設する。現在、バス乗場の方面別化に向けた協議を進めており、平成21年度末の完成に向けて施工中だ。

また、西口広場に隣接して、道路拡幅、歩道新設、駐輪場の整備を行い、西口周辺地区の回遊性の向上を図る。

### 児童思春期問題の解決に こころのケアを拡充

#### こころのケアを拡充

**問** 児童思春期対策へのこころの健康センター（精神保健福祉センター）とこども総合相談所（児童相談所）の連携

は。

**答** 児童虐待や不登校、ひきこもりなどの児童思春期の問題は子どもや保護者に対するこころのケアが必要だ。しかし、精神科医等への相談や医療につながっているケースは少なく受診への支援も重要だ。



こころの健康センターを設置する保健福祉会館

こころの健康センターとこども総合相談所には精神科医や心理士等専門職員を配置するので、子どもや保護者がニーズに応じた専門相談やカウンセリング等を同時に同じ場所で行うことも可能となる。